

立場分かり合う契機に

弘大資料館でジェンダー表現テーマに企画展

広告博物館の 学生実践の成果展示



ジェンダー表現をテーマとする企画展をPRする
出准教授（前列左端）や受講学生ら

弘前大学資料館（文京町キャンパス内）で23日、メディアにおけるジェンダー表現をテーマとした企画展「わたしたちはわかりあえないからこそ〇〇する展」が始まる。国内唯一の広告博物館「アドミュージアム東京」（東京都）で昨年開催され、大きな反響を呼んだ展覧会の映像作品の一部を上映するほか、展覧会を題材にした実践講義の成果発表として受講学生の作品を展示する。入館料無料。

（稲葉智絵）

アドミュージアムは昨夏、ジェンダーギャップをテーマに相互理解について考える展覧会「わたしたちはわかりあえないからこそ展」を開催。「声をあげてみる」「決めつけをやめてみる」といった行動を促すキーワードを基に、映像、グラフィックなど国内外の広告事例約60点を紹介して好評を博した。

今回の企画展は、同大教育学部の出准奈子准教授による「教育メディアにおける少女表現に関する研究」の一環で、昨年度後期、今年度前期に展覧会を活用した実践講義を受けた学生の成果発表を目的に、同ミュージアムが協力。展覧会の巡回展として、大学で初開催する。

企画展では、学生たちが企画・制作したコーナーのほか、展示会の作品約40点を「気づきをつくらせてみる」「問いかけてみる」などのキーワードに沿って、解説パネルを添えて紹介する。新たな対話のきっかけになればようと、中央の展示台では〇〇に当てはまる内容を考え、記入してもらう。

出准教授は「好評を博した展示会を観覧できる貴重な機会。新たな対話の可能性やそれぞれの立場を分かち合うきっかけにしてもらいたい」と話した。

企画展は8月26日まで。開館時間は午前10時～午後4時（最終入館午後3時半）。休館日は日曜日、祝日および同12～14日。問い合わせは資料館（☎017-2393432）へ。

※この記事は陸奥新報社の提供です。

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

【問い合わせ先】弘前大学資料館

jm3432@hirosaki-u.ac.jp